

富士の巻狩の伝承 MAP



神場

原里地区にある地名「神場」は、かつて陣場と表記されたこともあり、源頼朝が富士の巻狩に際し、本陣を構えた場所と伝わっています。

駒門

富士岡地区にある地名「駒門」は、源頼朝が富士の巻狩に際し、愛鷹明神に奉納するための馬 99 頭を集め、この地に柵を作って放牧したことに由来すると伝わっています。

4. 兜石（御殿場）

御殿場区にある吾妻神社の境内には、「兜石」と呼ばれる石があります。元は沓間神明宮にあったもので、富士の巻狩に際し、沓間神明宮に参拝した源頼朝が兜を置いた石と伝わっています。



5. 和田の森（東田中）

富士の巻狩に際し、和田義盛が小高い丘に腰を下ろして昼食を取ろうとしたところ、箸が無かったことから近くに生えていた楓の枝を折って箸代わりに使いました。使い終わった後、その楓の枝を地面に挿していったところ、やがて芽吹いて森になったと伝わっています。



6. 和田（鮎沢）

鮎沢区にある鮎沢川に架かる和田橋の周辺は「和田」と呼ばれています。富士の巻狩に際し、和田義盛がこの辺りに陣を張ったことに由来すると伝わっています。



7. 牢場（鮎沢）

鮎沢区にある藍澤五卿神社の周辺は、「牢場」と呼ばれています。この辺りに護送途中の藤原宗行を監禁する牢屋があったことから、牢屋のあった場所で「牢場」と呼ばれるようになったといわれています。※地図上は「3. 藍澤五卿神社」と同じ場所のため表記なし

8. 猪蹴橋（仁杉）

富士の巻狩に際し、源頼朝一行に向けて手負いの猪が突進してきたといいます。後から馬に乗った仁田忠常が猪を追いかけ、橋のたもと近くで馬から飛び降り、刀を抜くと猪の背に突き刺したので、猪は深手を負い、橋から川底へ落ちていきました。そこで、この橋はシンケリバシと呼ばれるようになりましたが、後にシンケバシと呼ばれるようになったと伝わっています。



9. 沓掛石（新橋）

新橋区にある新橋浅間神社は、源頼朝が富士の巻狩の際に創建したとの伝承があります。境内には、源頼朝が足を掛けたとされる沓掛石があります。



10. 狩渡戸（深沢）

深沢区にある鮎沢川に架かる狩渡戸橋周辺は「狩渡戸」と呼ばれています。富士の巻狩に際し、源頼朝一行が足柄峠を越えて当地に入ったとき、ここに橋はなく、さらに鮎沢川が増水していました。そこで、側近数名が付近の人家に駆け込み、板戸を外して並べ、橋の代わりにして一行は鮎沢川を渡ったことに由来すると伝わっています。



11. 中休場（東山）

東山区にある地名「中休場」は、富士の巻狩に際し、源頼朝がこの辺りで休憩したことに由来すると伝わっています。



12. 夫婦石（竜）

竜区には、「夫婦石」と呼ばれる一対の巨石があります。富士の巻狩に際し、竜として使われたという伝承があり、この辺りが竜と呼ばれるようになった由来と伝わっています。



13. 矢場居（中清水）

中清水区にある地名「矢場居」は、富士の巻狩に際し、神場に陣を置いた源頼朝が最初に矢を射た場所、矢場射から矢場居と呼ばれるようになったと伝わっています。



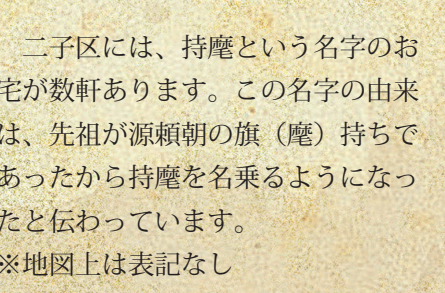
14. 駒門風穴（駒門）

約 1 万年前の富士山噴火で流れ出した溶岩流の中に出来た、富士山麓では最大規模の溶岩洞窟で国の天然記念物に指定されています。鎌倉幕府 2 代将軍、源頼家による富士の巻狩に際し、家来の仁田忠常に命じて探検させた風穴と伝わっています。風穴の内部には、「頼朝窟」など富士の巻狩に由来すると思われる場所があります。



15. 持麿（二子）

二子区には、持麿という名字のお宅が数軒あります。この名字の由来は、先祖が源頼朝の旗（麿）持ちであったから持麿を名乗るようになったと伝わっています。※地図上は表記なし



1. 東岳院（上小林）

上小林区にある臨済宗の寺院「東岳院」には、明治時代初めに奉納された浮世絵師歌川一雲斎国秀作の「源頼朝獵富士野之図」が掲げられています。この絵は、源頼朝の富士の巻狩の様子を描いた迫力ある作品であり、市民会館大ホールの第 2 緞帳の原図にもなっています。

2. 沓間神明宮（東田中）

東田中区の沓間神明宮周辺は、御殿場地方の名称「御厨」の中心となった地域とされ、このあたりを中心として、伊勢神宮の荘園「大沼鮎沢御厨」がありました。大江山の鬼退治で有名な平安時代中頃の武将、源頼光が懸仏を奉納したと伝わっています。沓間という地名は、源頼朝が富士の巻狩に際して参拝し、ここで蹴鞠をしたときに沓（靴）を社前に置いたことに由来するといいます。南側を流れる川は鞆子川と呼ばれるが、これは頼朝が蹴鞠をした際に誤って鞠を落としてしまったことに由来するといいます。御殿場周辺で行われた富士の巻狩において、頼朝や名立たる御家人が宿所を構えたのは、この辺りから鮎沢区辺りと想定されます。吾妻神社の兜石は、元は沓間神明宮にあったものです。



16. カンコラ淵（尾尻）

黄瀬川に架かる横橋の上流側に「カンコラ淵」と呼ばれる大きな淵があります。富士の巻狩に際し、ある武将がうっかりこの淵に太刀を落としてしまったといいます。以来、水が少なく晴れた日には淵の底が黄金色に輝いたと伝わっています。



17. 大休場（中畑東）

中畑東区にある小字「大休場」は、富士の巻狩に際し、源頼朝がこの辺りで休憩したことに由来すると伝わっています。

18. 鍋有沢（中畑北）

中畑北区にある地名「鍋有沢」は、富士の巻狩に際し、この辺りで炊事をしていたとき、炉が崩れて大鍋が割れてしまったことから鍋割沢と呼ばれ、後に鍋有沢と呼ばれるようになったと伝わっています。



19. 火打ち沢（時之栖）

時之栖区にある地名「火打ち沢」は、富士の巻狩に際し、工藤祐経がススキ野原であったこの辺りに陣を張っていたところ、父の仇を討つため曾我兄弟がススキ野原に火を放ったことに由来すると伝わっています。



3. 藍澤五卿神社（鮎沢）

鮎沢区には、承久の乱の首謀者として捕らえられ処刑された藤原宗行・藤原光親・源有雅・藤原範茂・藤原信能の 5 人の公家を祀る藍澤五卿神社があります。鎌倉幕府の北条氏により執権政治が行われていた承久 3 年（1221）、後鳥羽上皇の倒幕計画に対し幕府が兵を挙げ京を攻め落としたのが「承久の乱」です。藤原宗行は捕えられた 5 人の公家の内の 1 人で、京より鎌倉に送られる途中、鮎沢で最期を遂げたとされます。後に、地元の人々は藤原宗行を祀る藍澤神社を創建し、他の 4 人の公家、藤原光親・源有雅・藤原範茂・藤原信能を合わせて現在は藍澤五卿神社として祀っています。今上天皇が皇太子殿下であられた頃、お立ち寄りになっており、これを記念した記念樹が植えられています。



20. 俎村（神場）

神場区にある地名「俎村」は、富士の巻狩に際し、神場に集まった御家人や勢子の食事をこの辺りで作ったことに由来すると伝わっています。



21. 大御神さん（清後）

清後区にある日蓮宗の寺院「久成寺」には、「大御神さん」と呼ばれる、代々の住職が手厚く供養している墓所があります。承久の乱の首謀者の 1 人として捕らえられ、甲斐へ護送される途中に小山町須走の籠坂峠中腹で処刑された藤原光親を埋葬したと伝わる墓所です。久成寺の伝承では、久成寺の前身である真言宗寺院「普両庵」の住職が藤原光親の最期に立ち会い、藤原光親の命乞いをしたが聞き入れられず、住職は亡骸を普両庵に持ち帰り境内に葬ったといいます。



21. 大御神さん（清後）

清後区にある日蓮宗の寺院「久成寺」には、「大御神さん」と呼ばれる、代々の住職が手厚く供養している墓所があります。承久の乱の首謀者の 1 人として捕らえられ、甲斐へ護送される途中に小山町須走の籠坂峠中腹で処刑された藤原光親を埋葬したと伝わる墓所です。久成寺の伝承では、久成寺の前身である真言宗寺院「普両庵」の住職が藤原光親の最期に立ち会い、藤原光親の命乞いをしたが聞き入れられず、住職は亡骸を普両庵に持ち帰り境内に葬ったといいます。

